

2013/5/20

柏の景気情報（平成25年4月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援二課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成25年4月分）

○ 調査期間 : 平成25年4月19日 ~ 4月25日

○ 調査対象 : 柏市内160事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	160	89	55.6%
建設	45	23	51.1%
製造	35	18	51.4%
卸・小売	44	36	81.8%
サービス	36	12	33.3%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成25年4月の調査結果のポイント】

《業況DIは円安などの影響で悪化》

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.7(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が7.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△8.3(同▲11.7)であり、プラス幅が△20.0ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲5.5(同▲11.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲4.3(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲58.3(同▲35.2)であり、マイナス幅が▲23.1ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】からは、「わずかに受注が増えているが利益は不明、安全対策等の経費が削られない様、積算を考えてもらいたい。」(電気工事業)、「年度末の仕事が終わり、今年度の公共工事がまだ発注されていないため作業員が過剰になっている状態です。」(一般土木建築工事業)、「現在受注済み物件、施工中物件については材料値上げ前の見積りみの為、今後かなり厳しい業況となりそうだ。ゼネコンへ受注単価の値上げを交渉しているものの良い返事は得られない。採算、資金繰り等厳しい年度となりそうだ。」(その他の職別工事業)、「商工かしわに商品を掲載していただき、問合せが増えました。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「原料は円安で高騰気味に加え国内調整に苦慮。工場稼働もさほど忙しくなく、残業、休出は減少。」(特殊産業用機械)、「海外協力会社から値上げ要請、販売価格を変えないため利益をだすために苦慮している。」(その他の機械・同部品製造業)、「新製品発売の影響もあり、稼働率も高水準で推移。但し、今後については不透明な部分もある。」(酒類製造業)、「公共事業が動き出すことによって、一般的な企業も連動するかのように見える。しかし、実質的には資金的に弱体化して来てしまった企業にとっては、見込み資金繰りには慎重にならざるを得ない。」(印刷業)、「景気は上向きというが、製造業として実感はまるでない。」(その他の金属製品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「百貨店では高額商品が好調とアナウンスされているが、全く高額商品が売れていない。」(婦人・子供服小売業)、「柏駅前でも人通りが少なく夕方の帰宅時間も早いように見える。」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「柏駅前の販売店に同業者が開業して一年経過、当社店売上げの数字も今日より低水準で落ち着くか？」(書籍・文房具小売業)、「高額品のバッグ・アクセサリが好調」(その他の各種商品小売業)、「商圈外でも大型店のオープン時は人の流れが変わる。」(その他の各種商品小売業)、「まだまだ消費の動向が鈍く景気回復の実感はない。」(菓子・パン小売業)、「長期の景気が良くなり、食生活も悪くなって来ました。老人者の多い今日の社会では、まだまだ明るさは見えません。」(食肉小売業)、「アベノミクス効果は、青果物には程遠く、TPP問題、消費税の変更など社会情勢が気になるところです。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宿泊は柏駅前周辺のホテルがWeb販売の強化により販売価格が落ちた為、近隣の低単価ホテルを利用しての方々が柏周辺に集まってきた事や多少の景気の上向きによりマーケットシェアは大きく伸びるが一室単価が落ちたため原価や集客手数料が上がり利益は伸びず。」(ホテル)、「個人需要はほぼ前年並み、国内・海外旅行も月によっては前年超え、アベノミクス効果か？法人需要も前年並み。」(旅行業)、「物件を探すお客様は増えています。」(不動産賃貸業)、「金融緩和による利上げが心配であるが、現在は史上空前の低金利の恩恵で資金繰りは従来より若干の余裕を感じますが、今後の各種税率引上げや、光熱費等の値上がり等によるコストUPに対処できるか先行き心配。」(不動産賃貸・管理業)、「IT企業の下請け業は大変厳しい状況です。だから、オンリーワンが必要であり、下請け業脱出が懸命である。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎天候の影響

各業種から、「天候不順により工期がおくれている。」(電気工事業)、「3月は衣料品が好調に推移するも、4月は反動でやや苦戦。」(百貨店)、「気候不順による影響が大、気温差が多すぎる。特に強風時の売上は最悪と成る。」(婦人・子供服小売業)、「4月は、天候が激しく変わり外出が減ったように思える。」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「天候不順の影響もあり、売上げが前年と目標を下回っている状況です。」(百貨店)、「4月度、気温の上昇にともない春物商材は活発化するも、初旬は悪天候に見舞われる日が多く苦戦した。」(その他の各種商品小売業)、「週末の天候が悪くイベント等の結果に大きく影響した。」(菓子・パン小売業)、「売上減の要因は天候不順の影響が大きいと思う。」(その他の各種商品小売業)、「4月に入り、さくら祭りなどのイベントで土日は強風雨となり、食の流通は期待はずれな動きとなりました。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎円安の影響

各業種から、「円安となり原油、原材料の価格高騰が進み材メーカーから5月中旬より、15~20%の値上げが確定。」(その他の職別工事業)、「円安による輸出関連の回復に期待。」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「円安による材料費高騰が出てきているが、売値への転換が出来ず、利益圧迫している。」(紙製容器製造業)、「円安による影響で徐々に仕入れ商品の価格が上がってきている。」(各種食料品小売業)、「LPガス輸入元売筋によると、11・12月をピークに下落に転じているとされているが、問題はアベノミクス効果の円安基調。我々はメリットがない。」(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

◎材料価格の値上がり

各業種から、「畳工事も増えているのですが、材料高騰のため業況と資金繰りが悪化。」(内装工事業)、「原料は円安で高騰気味に加え国内調整に苦慮。」(特殊産業用機械)、「円安の影響で徐々に仕入れ商品の価格が上がってきている」(各種食料品小売業)、「食品加工メーカーより値上げの話がきているのですが、納品先に理解していただけるかが不安です。」(農畜産物・水産物卸業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲39.6	▲20.6	▲27.7	▲55.8	▲50.0
12月	▲23.7	▲14.2	±0.0	▲54.5	▲5.8
1月	▲22.4	▲10.3	▲27.7	▲39.3	▲5.5
2月	▲22.9	▲17.2	▲27.7	▲41.1	△13.3
3月	▲17.3	±0.0	▲11.1	▲35.2	▲11.7
4月	▲24.7	▲4.3	▲5.5	▲58.3	△8.3
見通し	▲16.8	△4.3	▲27.7	▲30.5	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成25年4月の業況についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.7(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が7.4ポイント拡大した。

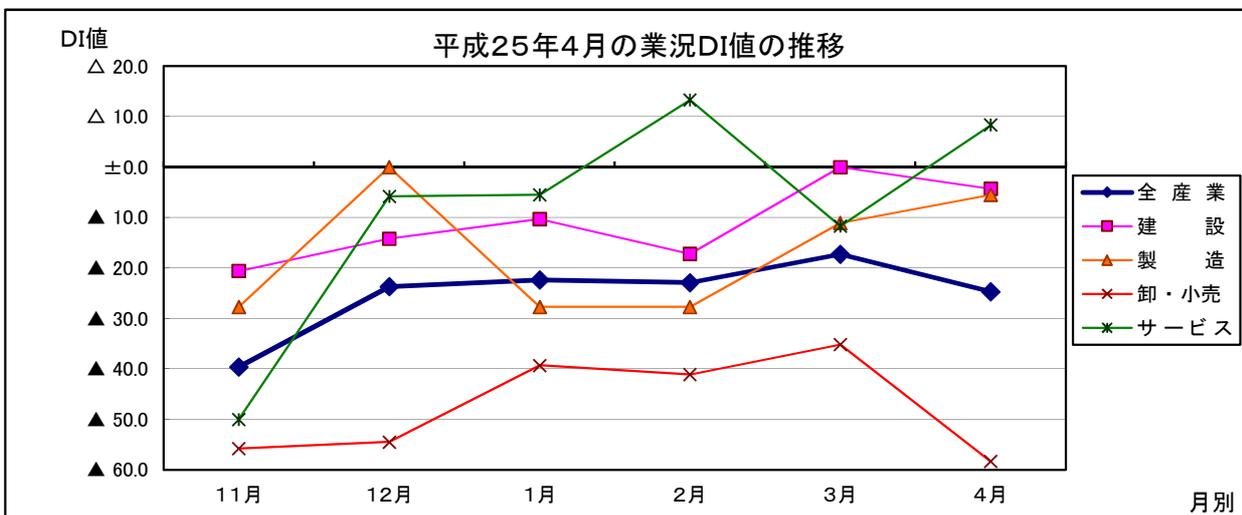
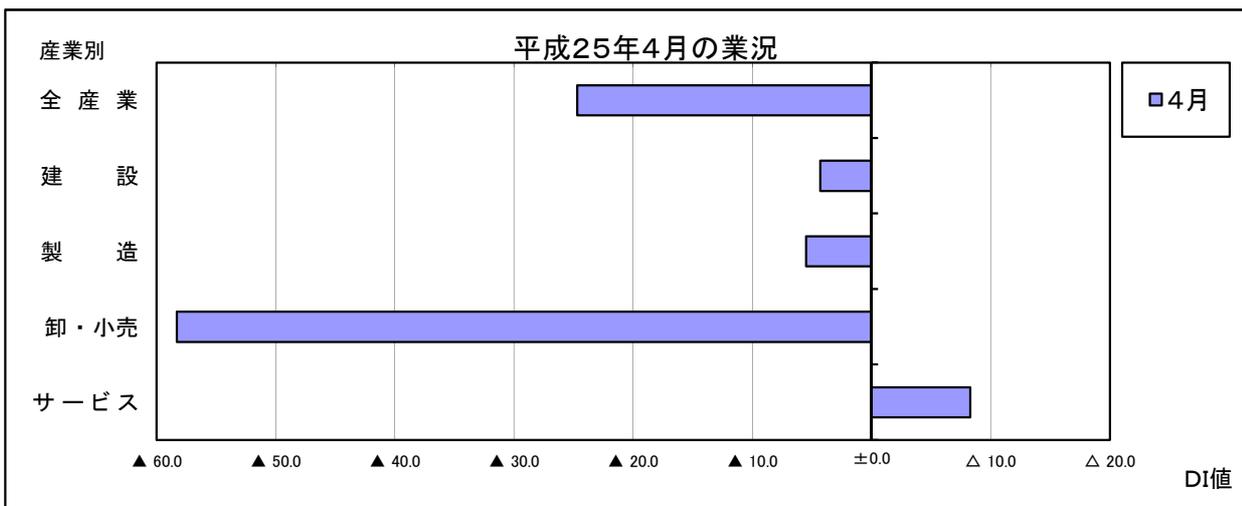
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△8.3(同▲11.7)であり、プラス幅が△20.0ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲5.5(同▲11.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲4.3(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲58.3(同▲35.2)であり、マイナス幅が▲23.1ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.8(前月水準▲8.6)となり、マイナス幅が▲8.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同△5.8)、建設業△4.3(同△8.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲27.7(同▲16.6)、卸小売業▲30.5(同▲23.5)である。

平成25年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 11月	12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲39.6	▲23.7	▲22.4	▲22.9	▲17.3	▲24.7	▲16.8(▲8.6)
建設	▲20.6	▲14.2	▲10.3	▲17.2	±0.0	▲4.3	△4.3(△8.6)
製造	▲27.7	±0.0	▲27.7	▲27.7	▲11.1	▲5.5	▲27.7(▲16.6)
卸・小売	▲55.8	▲54.5	▲39.3	▲41.1	▲35.2	▲58.3	▲30.5(▲23.5)
サービス	▲50.0	▲5.8	▲5.5	△13.3	▲11.7	△8.3	±0.0(△5.8)



【平成25年4月の売上についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20. 2(前月水準▲13. 0)となり、マイナス幅が▲7. 2ポイント拡大した。

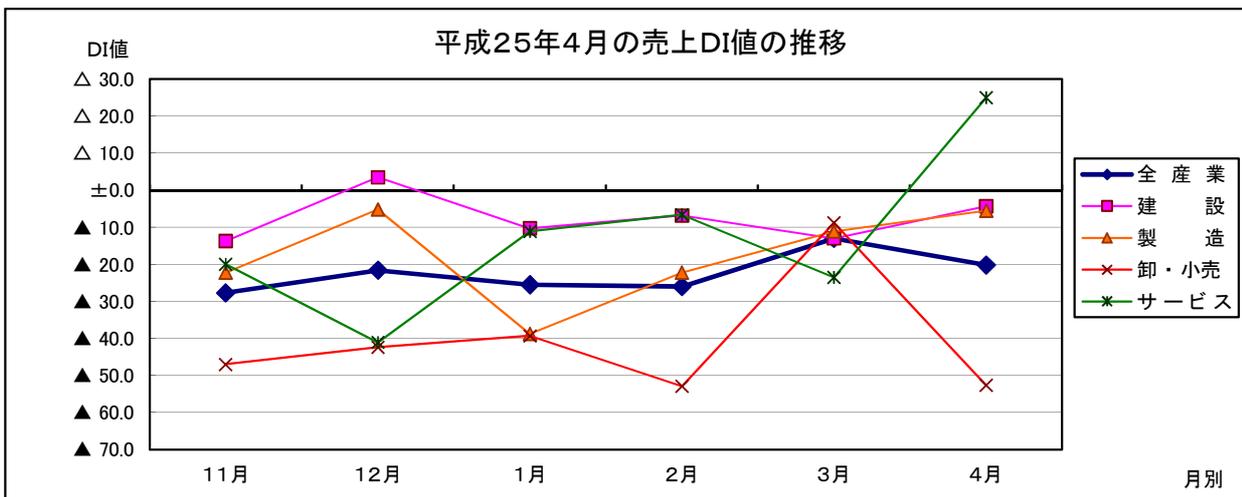
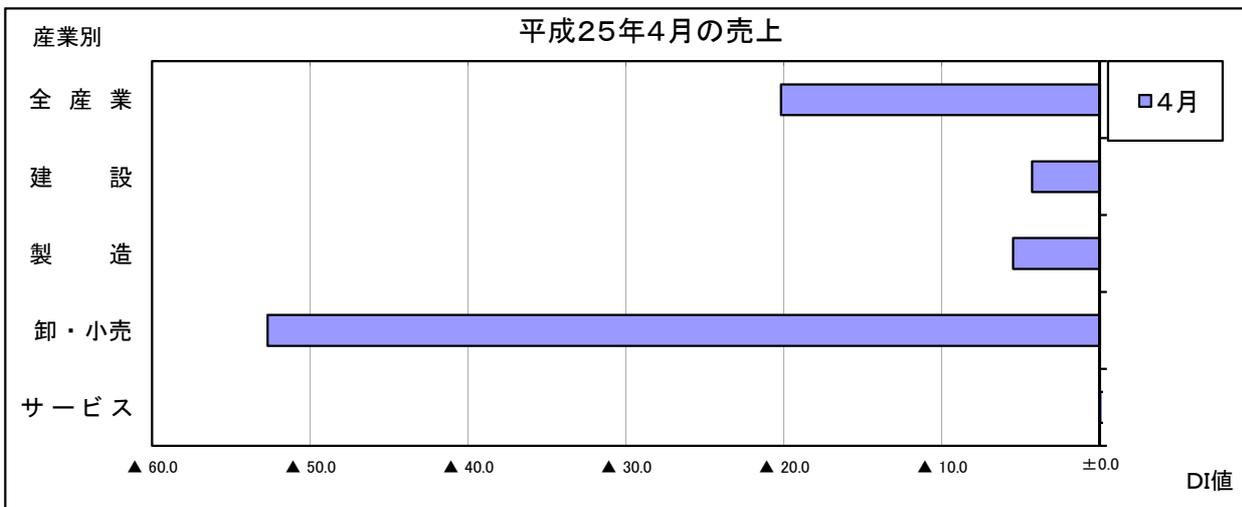
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△25. 0(同▲23. 5)であり、プラス幅が△48. 5ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲4. 3(同▲13. 0)、製造業▲5. 5(同▲11. 1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲52. 7(同▲8. 8)であり、マイナス幅が▲43. 9ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8. 9(前月水準▲2. 1)となり、マイナス幅が▲6. 8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△4. 3(同▲4. 3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲13. 8(同▲17. 6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△±0. 0(同△29. 4)であり、プラス幅が▲29. 4ポイントと大幅に縮小する見通しである。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲22. 2(同±0. 0)であり、マイナス幅が▲22. 2ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成25年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 11月	12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲27.7	▲21.6	▲25.5	▲26.0	▲13.0	▲20.2	▲8.9(▲2.1)
建設	▲13.7	△3.5	▲10.3	▲6.8	▲13.0	▲4.3	△4.3(▲4.3)
製造	▲22.2	▲5.2	▲38.8	▲22.2	▲11.1	▲5.5	▲22.2(±0.0)
卸・小売	▲47.0	▲42.4	▲39.3	▲52.9	▲8.8	▲52.7	▲13.8(▲17.6)
サービス	▲20.0	▲41.1	▲11.1	▲6.6	▲23.5	△25.0	±0.0(△29.4)



【平成25年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲35.9(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が▲18.6ポイント拡大した。

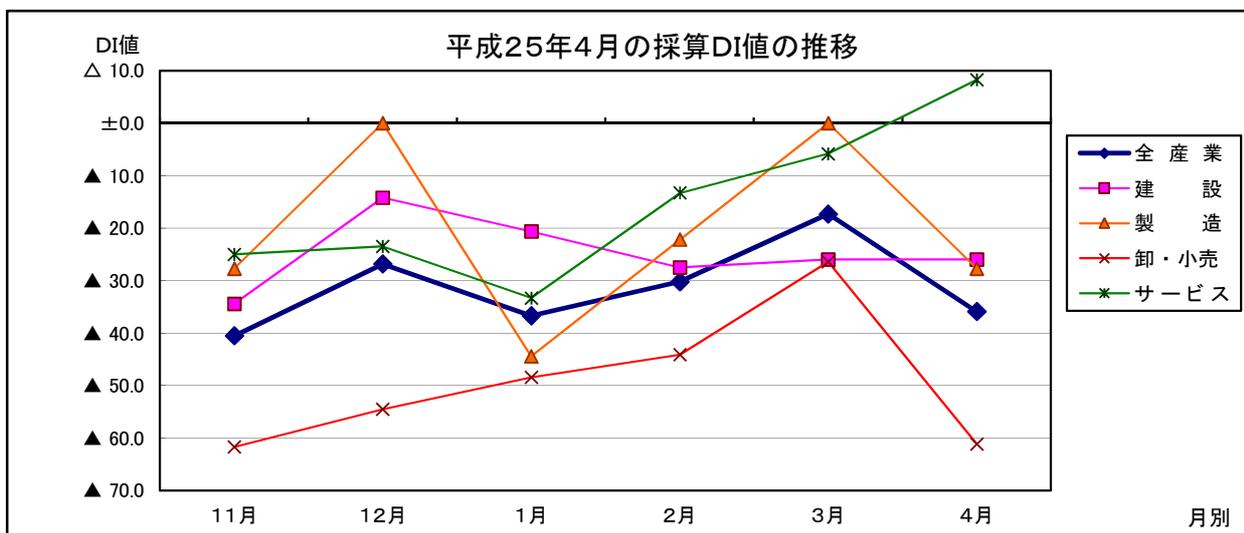
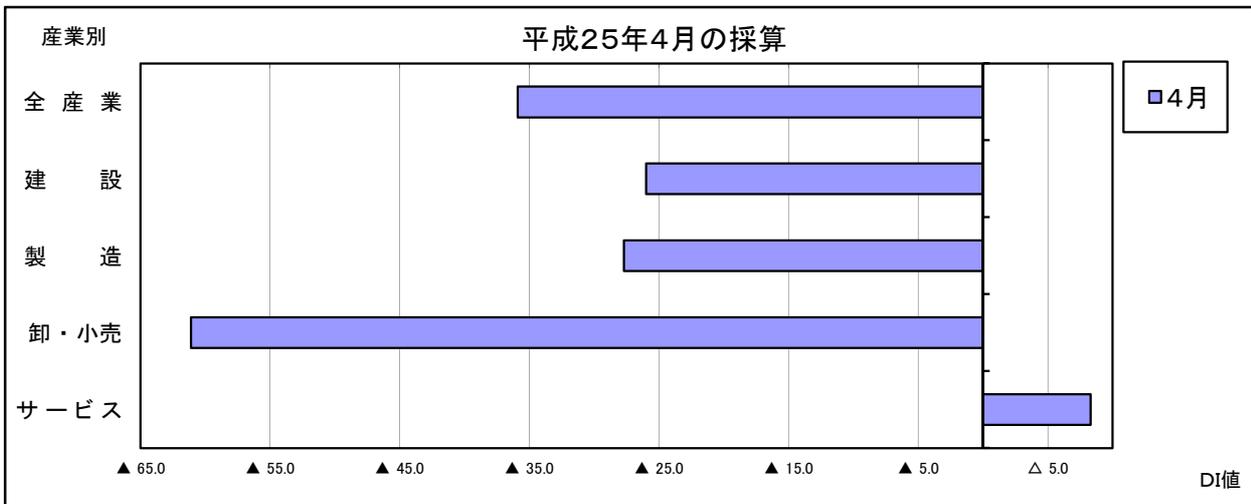
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△8.3(同▲5.8)である。変らない業種は、建設業▲26.0(同▲26.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲27.7(同±0.0)であり、マイナス幅が▲27.7ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲61.1(同▲26.4)であり、マイナス幅が▲34.7ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.8(前月水準▲15.2)となり、マイナス幅が▲1.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲19.4(同▲29.4)、建設業▲13.0(同▲17.3)である。変らない見通しの業種は、製造業▲22.2(同▲22.2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲8.3(同△23.5)であり、マイナス幅が▲31.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成25年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 11月	12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲40.5	▲26.8	▲36.7	▲30.2	▲17.3	▲35.9	▲16.8(▲15.2)
建設	▲34.4	▲14.2	▲20.6	▲27.5	▲26.0	▲26.0	▲13.0(▲17.3)
製造	▲27.7	±0.0	▲44.4	▲22.2	±0.0	▲27.7	▲22.2(▲22.2)
卸・小売	▲61.7	▲54.5	▲48.4	▲44.1	▲26.4	▲61.1	▲19.4(▲29.4)
サービス	▲25.0	▲23.5	▲33.3	▲13.3	▲5.8	△8.3	▲8.3(△23.5)



【平成25年4月の仕入単価についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.4(前月水準▲34.7)となり、マイナス幅が▲5.7ポイント拡大した。

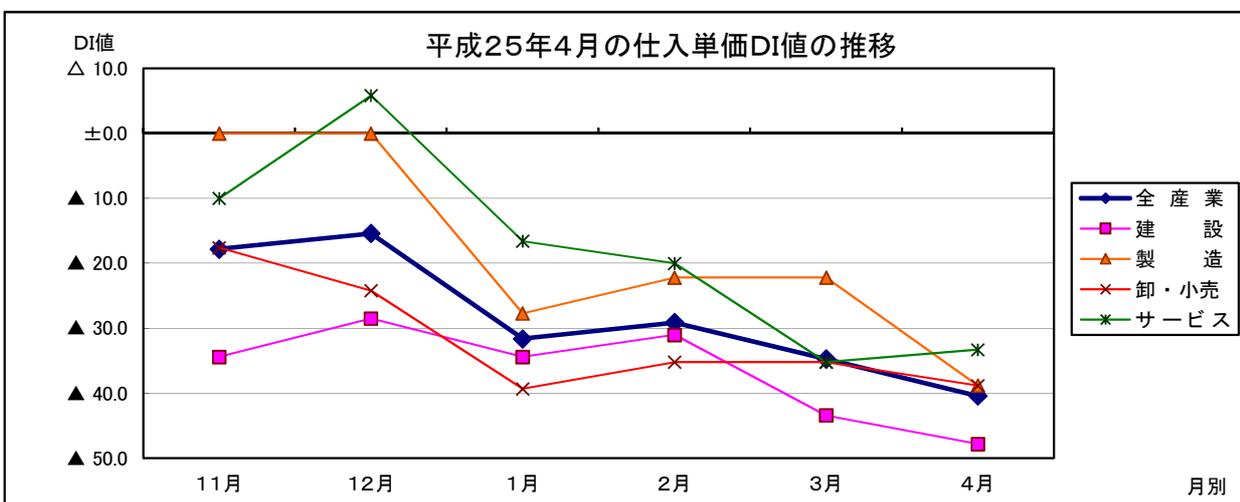
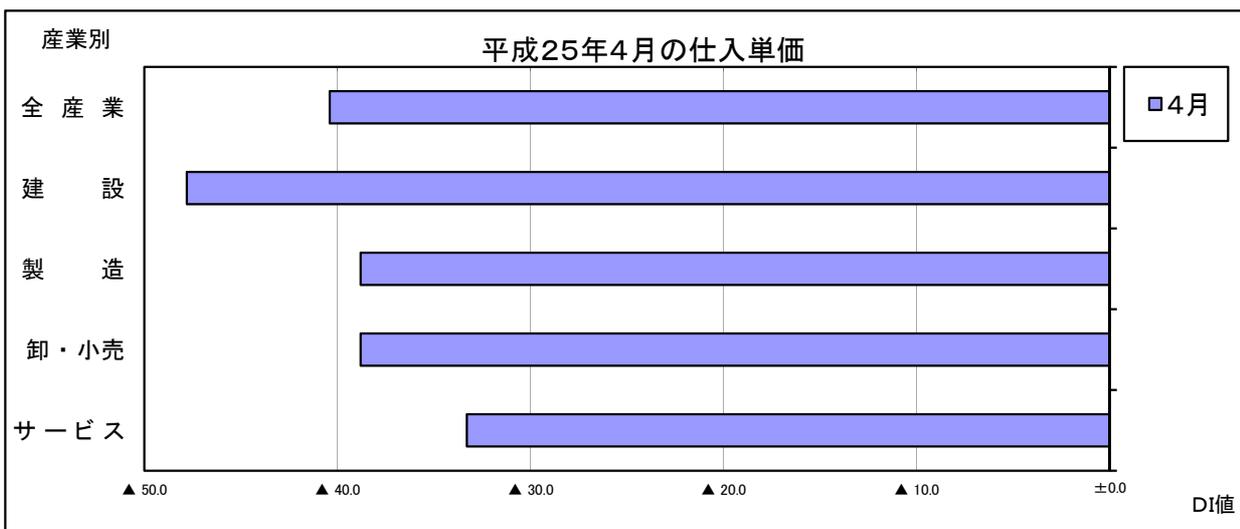
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種はサービス業▲33.3(同▲35.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲38.8(同▲22.2)、建設業▲47.8(同▲43.4)、卸小売業▲38.8(同▲35.2)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲38.2(前月水準▲36.9)となり、マイナス幅が▲1.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲27.7(同▲33.3)、建設業▲39.1(同▲43.4)、サービス業▲33.3(同▲35.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲44.4(同▲35.2)である。

平成25年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 11月	12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲17.8	▲15.4	▲31.6	▲29.1	▲34.7	▲40.4	▲38.2(▲36.9)
建設	▲34.4	▲28.5	▲34.4	▲31.0	▲43.4	▲47.8	▲39.1(▲43.4)
製造	±0.0	±0.0	▲27.7	▲22.2	▲22.2	▲38.8	▲27.7(▲33.3)
卸・小売	▲17.6	▲24.2	▲39.3	▲35.2	▲35.2	▲38.8	▲44.4(▲35.2)
サービス	▲10.0	△5.8	▲16.6	▲20.0	▲35.2	▲33.3	▲33.3(▲35.2)



【平成25年4月の従業員についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.7(前月水準▲2.1)となり、マイナス幅が▲4.6ポイント拡大した。

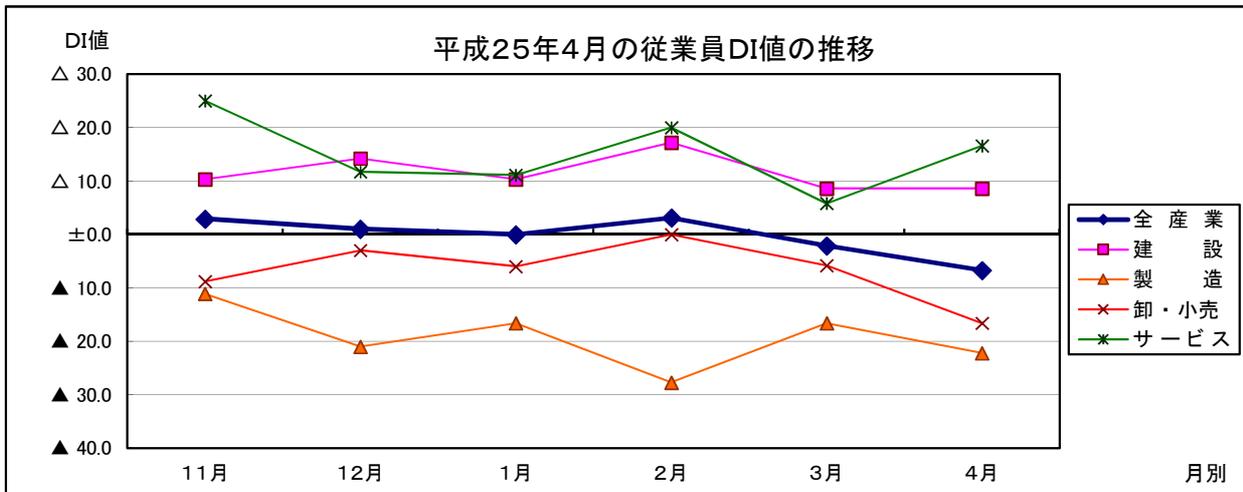
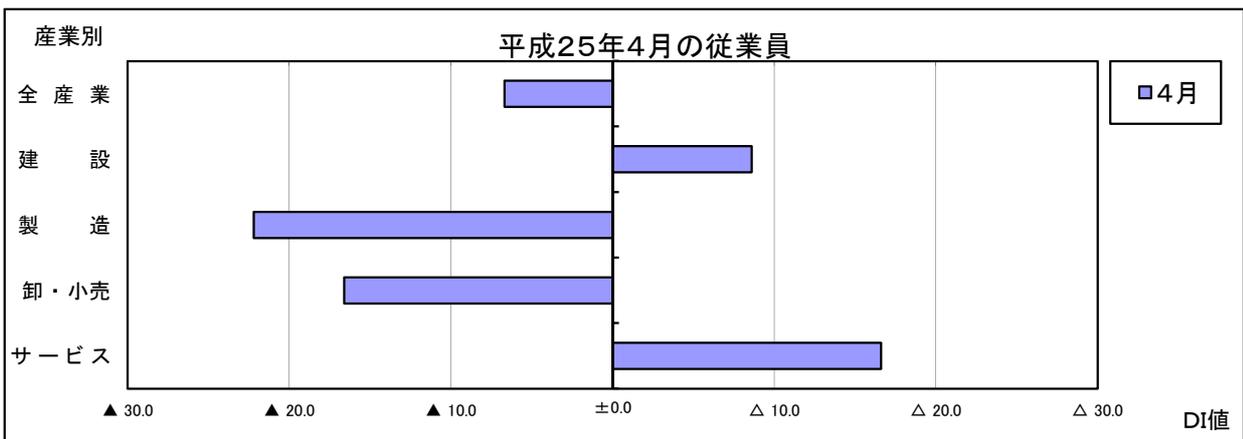
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△16.6(同△5.8)である。変らない業種は、建設業△8.6(同△8.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲16.6(同▲5.8)、製造業▲22.2(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.3(前月水準▲5.4)となり、マイナス幅が2.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△8.6(同△4.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲22.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△5.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲11.1(同▲8.8)である。

平成25年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 11月	12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	△2.9	△1.0	±0.0	△3.1	▲2.1	▲6.7	▲3.3(▲5.4)
建設	△10.3	△14.2	△10.3	△17.2	△8.6	△8.6	△8.6(△4.3)
製造	▲11.1	▲21.0	▲16.6	▲27.7	▲16.6	▲22.2	▲5.5(▲22.2)
卸・小売	▲8.8	▲3.0	▲6.0	±0.0	▲5.8	▲16.6	▲11.1(▲8.8)
サービス	△25.0	△11.7	△11.1	△20.0	△5.8	△16.6	±0.0(△5.8)



【平成25年4月の資金繰りについての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.9(前月水準▲10.8)となり、マイナス幅が1.9ポイント縮小した。

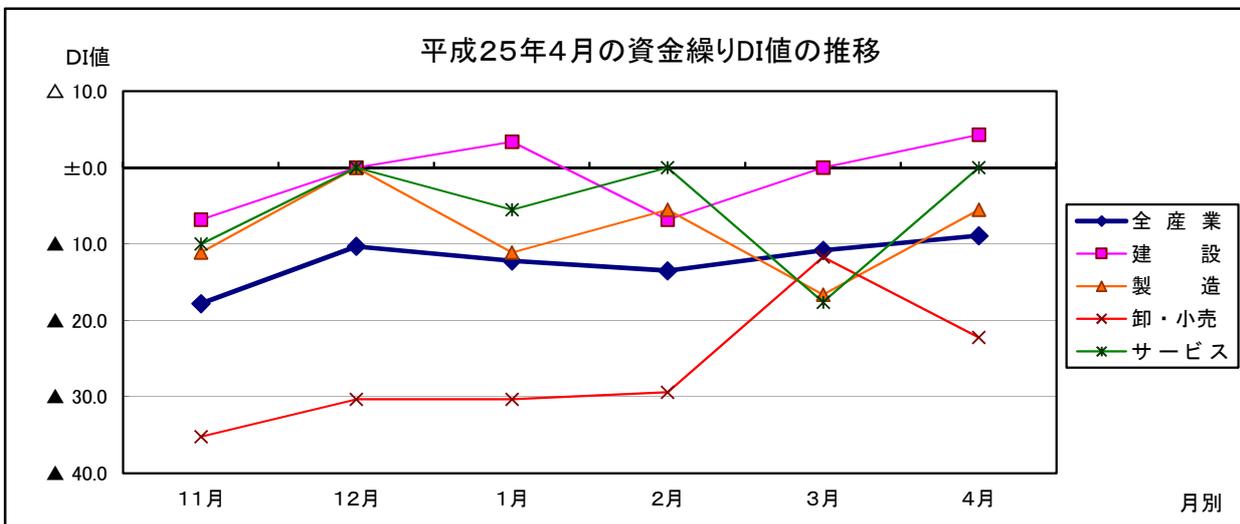
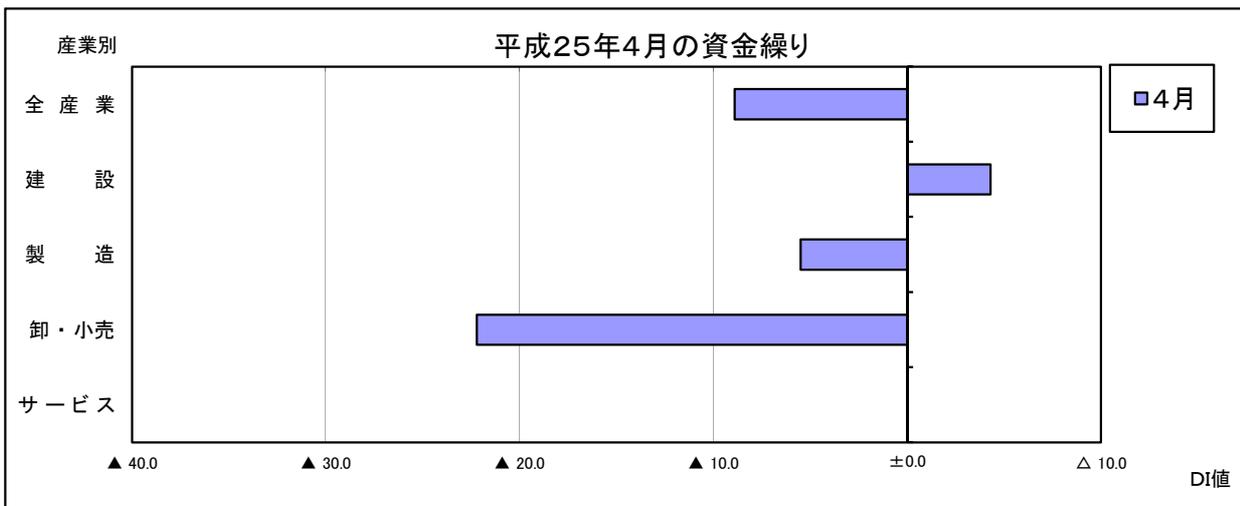
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△4.3(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲17.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲5.5(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲22.2(同▲11.7)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.7(前月水準▲9.7)となり、マイナス幅が3.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△13.0(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲11.1)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲22.2(同▲20.5)である。

平成25年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成24年 11月	12月	平成25年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲17.8	▲10.3	▲12.2	▲13.5	▲10.8	▲8.9	▲6.7(▲9.7)
建設	▲6.8	±0.0	△3.4	▲6.8	±0.0	△4.3	△13.0(±0.0)
製造	▲11.1	±0.0	▲11.1	▲5.5	▲16.6	▲5.5	▲5.5(▲11.1)
卸・小売	▲35.2	▲30.3	▲30.3	▲29.4	▲11.7	▲22.2	▲22.2(▲20.5)
サービス	▲10.0	±0.0	▲5.5	±0.0	▲17.6	±0.0	±0.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 20.2	▲ 8.9	▲ 35.9	▲ 16.8	▲ 40.4	▲ 38.2	▲ 6.7	▲ 3.3
建設	▲ 4.3	△ 4.3	▲ 26.0	▲ 13.0	▲ 47.8	▲ 39.1	△ 8.6	△ 8.6
製造	▲ 5.5	▲ 22.2	▲ 27.7	▲ 22.2	▲ 38.8	▲ 27.7	▲ 22.2	▲ 5.5
卸・小売	▲ 52.7	▲ 13.8	▲ 61.1	▲ 19.4	▲ 38.8	▲ 44.4	▲ 16.6	▲ 11.1
サービス	△ 25.0	±0.0	△ 8.3	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 33.3	△ 16.6	±0.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 24.7	▲ 16.8	▲ 8.9	▲ 6.7
建設	▲ 4.3	△ 4.3	△ 4.3	△ 13.0
製造	▲ 5.5	▲ 27.7	▲ 5.5	▲ 5.5
卸・小売	▲ 58.3	▲ 30.5	▲ 22.2	▲ 22.2
サービス	△ 8.3	±0.0	±0.0	±0.0

【平成25年4月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設業	天候不順により工期がおくれている。わずかに受注が増えているが利益は不明、安全対策等の経費が削られない様、積算を考えてもらいたい。	天候の影響 受注微増	電気工事業
	前年、年度末の仕事が終わり、今年度の公共工事がまだ発注されていないため作業員が過剰になっている状態です。	年度末 公共工事 人員過剰	一般土木建築工事業
	円安となり原油、原材料の価格高騰が進み材メーカーから5月中旬より、15～20%、場合によってはそれ以上の値上げが確定している。現在受注済み物件、施工中物件については材料値上げ前の見積りの為、今後かなり厳しい業況となりそう。ゼネコンへ受注単価の値上げを交渉しているものの良い返事は得られない。採算、資金繰り等厳しい年度となりそう。	円安の影響 材料価格の高騰 厳しい業況 受注単価 資金繰り	その他の職別工事業
	商工かしわに商品を掲載していただき、問合せが増えました。畳工事も増えているのですが、材料高騰のため、業況と資金繰りが悪化。来月は休みも多くなりますが、売上と業況もよくなると思います。	商工かしわ 受注増加 材料価格の高騰	内装工事業
製造業	円安による輸出関連の回復に期待。	円安の影響 輸出回復に期待	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	景気の上向き感はない。原料は円安で高騰気味に加え国内調整に苦慮。工場稼働もさほど忙しくなく、残業、休出は減少。	材料価格の高騰 国内調整 工場稼働減少	特殊産業用機械
	比率的には多くは無いが、円安の影響が出ている。①材料値上がり、②輸入品値上がり、③海外協力会社から値上げ要請 販売価格を変えないため、利益を出すために苦慮している	円安の影響 材料価格値上がり 値上げ要請 販売価格維持	その他の機械・同部品製造業
	新製品発売の影響もあり、稼働率も高水準で推移。但し、今後については不透明な部分もある。	稼働率UP 先行き不透明	酒類製造業
	公共事業が動き出すことによって、一般的な企業も連動するかのように見える。しかし、実質的には資金的に弱体化して来てしまった企業にとっては、見込み資金繰りには慎重にならざるを得ない。	公共事業 資金繰り	印刷業
	景気は上向きというが、製造業として実感はまるでない。一度、海外に移管された製品が日本に戻ってくることはないの、ものづくり企業としては新しい製品を対象に事業を展開するしかない。従来の不景気から景気回復への順路とは全く違うということである。	海外に移管 新製品の展開 景気回復へ不安	その他の金属製品製造業
	円安による一部の企業には好転も見られるが、弊社ではそれ程感じられない。	円安の影響	一般産業用機械・装置製造業
円安による材料費高騰が出てきているが、売値への転換が出来ず、利益圧迫している。仕入れ価格交渉も、困難な状況。	円安の影響 利益圧迫	紙製容器製造業	
	3月は衣料品が好調に推移するも、4月は反動でやや苦戦。気温の変化も大きく衣料品の対応に苦慮	天候の影響	百貨店
	気候不順による影響が大、気温差が多すぎる。特に強風時の売上は最悪と成る。百貨店では高額商品が好調とアナウンスされているが、全く高額商品が売れていない。一部株で儲けた人達の話してはないかと邪推してしまう。	天候の影響 高額商品不調	婦人・子供服小売業
	4月は、天候が激しく変わり外出が減ったように見える、生活必需品以外の出費を抑えるように見える、柏駅前でも人通りが少なく夕方の帰宅時間も早いように見える、一部の企業が良さそうだが企業のみで実際に従業員へ波及されていない様子、6月のボーナス時期までは？	天候の影響 人通り減少	時計・眼鏡・光学機械小売業
	柏駅前の販売店に同業者が開業して一年経過、当社店売上げの数字も今日より低水準で落ち着くか？今年の新学期教科書も一段落。	競合店の影響 新学期	書籍・文具具小売業
	天候不順の影響もあり、売上げが前年と目標を下回っている状況です。	天候の影響 売上げ減少	百貨店

【平成25年4月の業種別業界内トピックス】

卸小売業	4月度、気温の上昇にともない春物商材は活発化するも、初旬は悪天候に見舞われる日が多く苦戦した。春休み明けからは天候も安定したことから、トレンドのパンツやワンピースの動きがよく、また、高額品のバッグ・アクセサリーが好調だったことから中旬大きく盛り返しを見せた。後半はGWイベントを盛り上げ、集客強化を図り売上に繋げていく。	天候の影響 高額商品好調 集客強化	その他の各種商品小売業
	春日部や酒々井等の商圏外でも、大型店のオープン時は人の流れが変わる。一時的なものか、目をくばらせないといけないと思う。	商圏外 大型店オープン	その他の各種商品小売業
	円安による影響で徐々に仕入れ商品の価格が上がってきている。一部の景気は良くなっているとの報道はされているが食品小売での実感はない。	円安の影響 原材料の値上がり 食料品への影響	各種食料品小売業
	週末の天候が悪くイベント等の結果に大きく影響した。まだまだ消費の動向が鈍く景気回復の実感はない。	天候の影響	菓子・パン小売業
	長期の景気が良くなりならず、食生活も悪くなって来ました。老人者の多い今日の社会では、まだまだ明るさは見えません。千葉県でも柏などは高齢者が多いと耳にするが、柏でも一部の地区では高齢者が多く景気が悪いと小売業者は大変のようです。業況がよくなるまで努力しかありません。	先行き不透明 高齢者の増加	食肉小売業
	食品加工メーカーより値上げの話がきているのですが、納品先に理解していただけるかが不安です。	原材料の値上がり	農畜産物・水産物卸売業
	売上減の要因は天候不順の影響が大きいと思う。例年GW前、売上げが伸びるので後半の追い上げを期待している。商品単価はそのまま用量を減らすなどの実質値上げが見られる。	天候の影響 GWへの期待 値上げ対策	その他の各種商品小売業
	4月に入り、さくら祭りなどのイベントで土日は強風雨となり、多くの方が中止の対応を取られた様子を聞き、食の流通は期待ハズレな動きとなりました。青果物市場にあつては、一時の暖かさから野菜の生育が順調であり入荷量は増加傾向で、安値取引となっています。その後、寒暖の差が大きく、バラついた入荷量の増減となって推移しています。アベノミクス効果は、青果物には程遠く、TPP問題、消費税の変更など社会情勢が気になるところです。また、最近では健康志向から、飲料や調理に変化があり、活発な消費でなくなりつつあります。引き続き、市場流通においては、安心、安全な商品の取引を進めていきます。	天候の影響 野菜の育成順調 アベノミクス 健康志向	食料・飲料卸売業
LPガス輸入元売筋によると、11月・12月をピークに下落に転じているとされているが、問題はアベノミクス効果の円安基調。せっかく値下がりしても円安で帳消しとなっているだけに我々はメリットがない。	LPガス値下がり アベノミクス 円安の影響 メリットなし	燃料小売業	
サービス業	宿泊は、柏駅前周辺のホテルがWeb販売の強化により販売価格が落ちた為、近隣の低単価ホテルを利用していた方々が柏駅周辺に集まってきた事や多少の景気の上向きによりマーケットシェアは大きく伸びるが一室単価が落ちたため原価や集客手数料が上がり利益は伸びず。宴会は歓送迎会、同窓会、資産運用セミナー等の獲得により売り上げ増。	WEB販売 集客効果 単価下落 宴会増加	ホテル
	個人需要は4月はほぼ前年並み、国内旅行は5・6・7月とも前年超える。(人数、取扱額ともに)海外は5月、7月は前年超え。アベノミクス効果か？ただし、中国・韓国は少ない。ヨーロッパ、ハワイ、グアム、サイパン、台湾が人気。法人需要は4月はほぼ前年並み。第2四半期、第3四半期出発分が、今動いている。	国内・海外旅行増加 アベノミクス	旅行業
	物件を探すお客様は増えていますが、家賃と物件の内容のバランスが取れている事が成約の絶対条件になってきています(目が肥えています)	物件探し 需要増加	不動産賃貸業
	金融緩和による利上げが心配ではあるが、現在は史上空前の低金利の恩恵で資金繰りは従来より若干の余裕を感じますが、今後の各種税率引上げや、光熱費等の値上がり等によるコストUPに対処できるか先行き心配。	低金利の恩恵 資金繰り 消費税引上げ 光熱費値上がり	不動産賃貸・管理業

【平成25年4月の業種別業界内トピックス】

<p>IT業界の下請け業は大変厳しい状況です(我が社だけかも?)。製造部分は海外へオフショアすることが定着され、求められるのは高スキル・国内定着前のソフトを使ったシステム構築経験が多い。この先も益々同一方向への展開と思われる。だから、オンリーワンが必要であり、下請け業脱出が懸命である。</p>	<p>下請け オンリーワン</p>	<p>ソフトウェア業</p>
---	-----------------------	----------------

◎天候の影響

- ・ 天候の影響により工期がおくれている。電気工事業
- ・ 3月は衣料品が好調に推移するも、4月は反動でやや苦戦。気温の変化も大きく衣料品の対応に苦慮。百貨店
- ・ 気候不順による影響が大、気温鎖が多すぎる。特に強風時の売上は最悪と成る。婦人・子供服小売業
- ・ 4月は、天候が激しく変わり外出が減ったように思える。時計・眼鏡・光学機械小売業
- ・ 天候不順の影響もあり、売上げが前年と目標を下回っている状況です。百貨店
- ・ 4月度、気温の上昇にともない春物商材は活発化するも、初旬は悪天候に見舞われる日が多く苦戦した。その他の各種商品小売業
- ・ 週末の天候が悪くイベント等の結果に大きく影響した。菓子・パン小売業
- ・ 売上げ減の要因は天候不順の影響が大きいと思う。その他の各種商品小売業
- ・ 4月に入り、さくら祭りなどのイベントで土日は強風雨となり、多くの方が中止の対応を取られた様子を聞き、食の流通は期待ハズレな動きとなりました。食料・飲料卸売業

◎円安の影響

- ・ 円安となり原油、原材料の価格高騰が進む。その他の職別工事業
- ・ 円安による輸出関連の回復に期待。ゴムベルト・ゴムホース・工事
- ・ 比率的に多くは無いが、円安の影響が出ている。その他の機械・同部品製造業
- ・ 円安による一部の企業には好転も見られるが、弊社ではそれ程感じられない。一般産業用機械・装置製造業
- ・ 円安による材料費高騰が出てきている。紙製容器製造業
- ・ 円安による影響で徐々に仕入れ商品の価格が上がってきている。各種食料品小売業

◎材料価格の値上がり

- ・ 円安となり原油、原材料の価格高騰がみ材メーカーから5月中旬より15～20%、場合によってはそれ以上の値上げが確定している。その他の職別工事業
- ・ 畳工事も増えているのですが、材料高騰のため、業況と資金繰りが悪化。内装工事業
- ・ 景気の上向き感はない。原料は円安で高騰気味。特殊産業用機械
- ・ 円安の影響で材料値上がり。その他の機械・同部品製造業
- ・ 食品加工メーカーより値上げの話がきているのですが、納品先に理解していただけるかが不安です。農畜産物・水産物卸売業

平成25年4月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.7に対し、「CCI-LOBO」が▲15.2で柏の方がマイナス幅が9.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.2に対し、「CCI-LOBO」が△11.5で、柏の方がマイナス幅が31.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲35.9に対し、「CCI-LOBO」が▲18.3で、柏のほうがマイナス幅が17.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.4に対し、「CCI-LOBO」が▲34.7で、柏の方がマイナス幅が5.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業で、卸小売業が10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.7に対し、「CCI-LOBO」が△3.4で、柏の方がマイナス幅が10.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業で、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.9に対し、「CCI-LOBO」が▲10.6で、柏の方がマイナス幅が1.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。

平成25年4月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 24.7	 ▲ 4.3	 ▲ 5.5	 ▲ 58.3	 △ 8.3
CCI-LOBO	 ▲ 15.2	 2.0	 ▲ 24.4	 ▲ 25.9	 ▲ 7.3

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 20.2	 ▲ 4.3	 ▲ 5.5	 ▲ 52.7	 △ 25.0
CCI-LOBO	 11.5	 4.0	 ▲ 20.2	 ▲ 21.8	 ▲ 4.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 35.9	 ▲ 26.0	 ▲ 27.7	 ▲ 61.1	 △ 8.3
CCI-LOBO	 ▲ 18.3	 ▲ 11.2	 ▲ 28.1	 ▲ 20.6	 ▲ 13.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 40.4	 ▲ 47.8	 ▲ 38.8	 ▲ 38.8	 ▲ 33.3
CCI-LOBO	 ▲ 34.7	 ▲ 51.8	 ▲ 39.3	 ▲ 21.2	 ▲ 33.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 6.7	 △ 8.6	 ▲ 22.2	 ▲ 16.6	 △ 16.6
CCI-LOBO	 △ 3.4	 △ 9.2	 ▲ 6.6	 △ 7.3	 △ 10.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 8.9	 △ 4.3	 ▲ 5.5	 ▲ 22.2	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 10.6	 ▲ 2.4	 ▲ 14.9	 ▲ 13.6	 ▲ 10.1

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (4月速報)

調査期間：平成25年4月15日～19日

調査対象：全国の417商工会議所が3116業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、4カ月連続の改善も、仕入価格上昇を懸念

4月の全産業合計の業況DIは、▲15.2と、前月から+4.5ポイントの改善。円安・株高が続く中で、企業や消費者のマインド改善は一段と進んでおり、建設業や輸出関連企業などを中心に持ち直しの動きは継続している。しかし、足下では、売上が改善しているものの、燃料(原油、ガス)や原材料、電力料金などのコスト増により、収益に結びつかない企業が多く、景気回復への実感が乏しいとの見方も根強い。

先行きについては、先行き見通しDIが▲9.6(今月比+5.6ポイント)と、大幅に改善する見込み。燃料や原材料、電力料金などのコスト負担が増す中で、価格転嫁に苦慮する中小企業からは、先行きを懸念する声が多いものの、円安・株高を背景に、好調が続く建設業や輸出関連企業、持ち直しの動きを強める個人消費が下支えし、回復基調は続くと思われる。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、卸売

業、小売業ではほぼ横ばい、その他の3業種で改善した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「復興関連の土木工事のほか、採石などの受注も大幅に増加」(一般工事業)、「住宅建設が増加し、売上は好転。リフォーム市場も活況を呈しているが、人手不足により対応できない」(一般工事業)、「建設資材の価格が上昇。売上は増加しているものの、転嫁ができず、利益を圧迫している」(建築工事業)

【製造業】「電力料金やガス代の負担増に加え、包材や原材料の値上げもあり、商品価格の見直しを検討」(食料品製造業)、「復興関連の受注が伸びているものの、仕入コストの上昇が心配」(造船業)、「4月1日から開始した木材利用ポイント事業により、住宅関連の受注が増加傾向」(製材業)

【卸売業】「価格転嫁を進めているものの、円安による商品の値上げスピードが速く、一時的に減益となっている」

【小売業】「高額品の売上が好調に推移。採算も改善している」(百貨店)、「節電に努めているものの、電力料金などの上昇により経費負担が増している」(総合スーパー)、「春物衣料が堅調なほか、身の回り品や食料品なども前年を上回る水準となっている」(商店街)

(農産物卸売業)、「建設資材の動きが活発になっており、販売価格も上昇していることから、売上・採算は改善」(建築材料卸売業)、「大手のコンビニやドラッグストアの出店が相次いでいる。地元小売店の売上が減少しており、自社にも影響が及んでいる」(食料品・飲料品卸売業)

【サービス業】「燃料価格が高止まりしており、経費負担が重い。運賃への転嫁も進んでいない」(運送業)、「花見客が多く、売上は改善。ゴールデンウィークにも期待できる」(飲食店)、「ビジネス客、観光客ともに増加傾向が続き、業況は好転している」(旅館業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲31.1	▲17.9	▲37.6	▲26.1	▲39.9	▲27.9
12月	▲34.1	▲22.6	▲35.9	▲38.9	▲41.9	▲30.9
1月	▲29.6	▲15.7	▲33.3	▲30.0	▲39.8	▲24.9
2月	▲26.4	▲9.9	▲31.0	▲26.7	▲37.8	▲21.8
3月	▲19.7	▲6.4	▲27.4	▲15.7	▲25.4	▲17.2
4月	▲15.2	2.0	▲24.4	▲15.7	▲25.9	▲7.3
見通し	▲9.6	2.0	▲11.7	▲14.0	▲17.1	▲6.5

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI